

冠山会だより

第39号

発行所
奈良県立郡山高等学校
冠山会
発行責任者
日高 容子
編集責任者
冠山会事務局
発行部数 32,000部

母校の発展を願う

冠山会会長
小林 勢治

平成三十年度の冠山会総会において、新しい役員体制が承認され、橋本前会長の後任として会長に就任いたしました昭和四十七年卒業の小林でございます。

微力ではございますが役員各位とともに冠山会並びに母校の発展をめざして尽力してまいりますので、会員の皆様にはこれまでにも増して、冠山会活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、同窓会活動の目的は、言うまでもなく母校の教育活動を支援することであり、同窓生相互の交流に寄与することにあります。そのため、冠山会ではこれまで部活動の全国大会出場等を援助したり、校内の環境整備を支援したりする事業

を展開するとともに、「冠山会だより」を全ての会員に発送し同窓会情報発信に努めてきたところで、

昨年度の事業では、全国・近畿大会に出場する部活動への援助に加え、「リーダー育成海外研修事業の支援」「ロボコン世界大会出場生徒への支援」「枯松伐採など校庭整備事業の支援」などを行いました。また、定例総会には朝日放送で人気番組のMCとして活躍されている岩本計介氏（平成六年卒）を講演講師に招き、例年以上に多くの会員の参加を得て盛大に開催することができました。

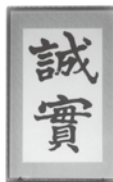
一方で冠山会だよりの発行にともなう会員の皆様には会報発行協力金の納入をお願いしておりますが、昨年度は二百名を超える多くの方々から協力をいただきました。集まった資金は会報発行のための経費としては勿論のこと、先に紹介した諸事業にも大いに活用させていただいております。協力いただいた皆様に紙面をお借りして心より御礼を申し上げます。ありがとうございます。

ところで、冠山会では令和二年六月の発行を目指して「冠山会名簿」の編集作業を進めることにいたしました。平成二十二年の発行以来、調

査編集作業が行われていまして、この間に卒業した会員の登録も含めて名簿情報を再整備することを目的に実施いたします。会員の皆様には趣旨をご理解いただき名簿調査には是非ご協力賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、郡山高校では毎年、卒業後五十年にあたる同窓生を卒業式に招待いただき、厳粛な式典の雰囲気の中で半世紀ぶりに味わう機会を設けていただいております。昨年度は昭和四十四年の卒業生が招待され、それぞれに貴重な思い出を作ったのだと思います。こうした母校の卒業生に対するお心遣いに改めて深く感謝申し上げます。

「不易流行」冠山会としても郡高としても、変えてはならぬものと変えねばならぬものを見極めながら、ともに充実発展できることを心より祈念いたしましてご挨拶とします。



令和元年度冠山会

総会・懇親会

冠山会副幹事長 松浦 光恭

新しく令和となった五月の第二日曜日に我が母校の冠山会総会が開催されました。初夏の陽射し輝ける中、講堂の前では昭和四十五年卒業の方々が付を担当していました。茶道部によるお茶席の接待を受けて十時より小林勢治会長の挨拶、土居学校長の挨拶に続き、事業・決算報告案、事業計画・予算案が審議され、承認されました。出席者全員で校歌斉唱して総会は閉会しました。今年の記念講演は郡山高校の箏曲部・合唱部・演劇部による発表会でした。箏曲部は一条乱れない見事な演奏を披露し、合唱部は澄み切ったさわやかな歌声で観客から絶賛の拍手喝采をうけ、また演劇部のコミカルなパフォーマンスは会場から笑いを誘っていました。その後新入会員は本校食堂で、我々は商工会館（まいどホール）で懇親会を行いました。懇親会では抽選会も行われました。食卓では和気藹々でいつまでも若かりしころの話は尽きることがありませんでした。この日は春季高校野球奈良県予選の決勝戦が行われており（残念ながら負けてしまいました）が、観戦に行きたかったのですが、百名以上の参加で盛大に開催されたことは喜ばしいかぎりでした。毎年「母の日」に行われま

す冠山会総会にもつとつと沢山の方々に参加され、冠山会活動がさらに盛り上がることを願っています。



冠山会総会は毎年5月第2日曜日（母の日）です。

郡高の思い出



前校長 匠原 記世子

郡山高等学校に校長として二年間勤務させていだいて、平成三十年度末で定年退職を迎えました。離任式の日には桜の花が咲き始め、お城まつりの中、吹奏楽部の「風になりたい」の演奏で、あの校門から送り出していただきました。歴史と伝統を誇る憧れの郡高で、三十八年間の教員生活の締めくくりをさせていただいたことは、私にとつてたいへん幸せなことであつたと感謝の気持ちでいっぱいです。

二年間を振り返りますと、一年目に当たる平成二十九年度は、城内学舎最後の年でした。二校分の校舎を使用させていただいていましたので、学習に関しては教室の数も十分にあり、部活動においても活動場所が確保できている豊かな施設環境でありました。第一学年は、定期的に大掃除をして校舎を最後までキレイに使用させていただきました。年度末には、生徒たちの力も借りて学舎間の物品の移動も行い、思い出ある城内学舎を閉じました。そして、平成三十年度は、十二年ぶりに三学年と一緒に学ぶという本来の形の郡山高等学校に戻りました。前年度までのように学校が二カ所にあることは、連絡をより密に取り合つて情報を正確に共有することに配慮が必要であつたり、不便を感じることもあつたの

で、やはり一つ屋根の下に、生徒も教員も全員が同じ学舎で居ることに安心感もつたものでした。それまでの、教員が授業のために二つの学舎を移動する、生徒たちが放課後の部活動のために行き来するなどは、他校にはない様子でした。そんな景色も郡高ならではのものであつたと懐かしく思い出されます。

そんなふうに思い出されるどんな場面にも、凛とした郡高生の姿があります。勉強もする部活動もする、学校行事にも全身全霊で取り組んでいる、そんな充実した学校生活を送る生徒たち、それは長い郡高の歴史に途切れることなく受け継がれている郡高魂であると思います。豊かな高校生活が、卒業後も母校愛として根付いていくのでしょう。

冠山会の皆様の母校愛は心温まるものでした。十二月にお世話おかけしています剪定ボランティアには、毎年参加してくださる方もたくさんおられます。久々に参加してくださった方で、その後も数回に渡って施設や環境の整備を手助けしてくださる方もいらつしやいました。母校に対してできることはやってやりたいというお気持ちがありがたくお受けして、花壇の葉ボタン植え、自転車置き場の屋根のペンキ塗り等、

様々な作業をお任せし助けていただきました。冠山会の皆様には、役員の方々始めたいへんお世話になりました。

橋本前会長には、常に私たち教員も応援していただきました。特に、総会のご挨拶の中で当時困難に直面していた私たちを労い励まし、冠山会も支えていくと言葉をかけていただき感動しました。こんなふうに教員を信頼いただき、学校のことを考えていただいているということに心打たれました。現会長は、教員の大先輩である小林先生です。前会長と同じく同窓会は学校を支えると協力態勢を明確に示してくださいます。

郡高は、在校生はもちろんのこと、卒業生である冠山会、育友会の皆さん方も郡高愛に溢れています。本心に羨ましい限りです。私も郡高勤務の二年間で、すっかり郡高ファンになりました。冠山会の末席に連なることができることを嬉しく思っています。

最後になりましたが、新しい令和の時代も、皆様の愛する母校と冠山会がますます発展なさいますようにお祈りしております。ありがとうございました。

松 籟

昨年のある日、作家の植松三十里（みどり）さんが校長室を訪ねてこられました。明治百五十年を記念して、安堵町（村）出身の政治家、今村勤三氏を主人公とした小説を執筆されるということで、勤三氏の次男、荒男さんの学んだ郡山中学の雰囲気を知るための訪問とのことでした。

植松さんのお話の中で、勤三氏の業績を伺いました。時代は本校126年の歴史をさらに遡り、本校の前身と重なります。年譜によると、明治9年、三の丸官邸の一隅に設置された郡山予備校は、わずか2ヶ月で奈良県の廃止とともに堺県の管轄となり、現在の地に移転した明治14年には堺県が大阪府に編入されたことにより大阪府立郡山中学校などに名前を改めています。その頃、大和の国は広大な大阪府の一地方に過ぎず、人々は冷遇の憂き目に遭っていたといえます。そんな中、奈良県独立の大願を掲げ、大きなうねりの中心となって政府に立ち向かっていったのが今村勤三氏なのだそうです。

さて、植松さんをお迎えした校長室の入口上には、二

着任の挨拶



校長 土居 正明

今年度の人事異動により、奈良北高等学校より赴任いたしました土居正明と申します。

旧制一中たる郡山高等学校で勤めることができませんことは高校の教員にとりましてこの上なく光栄なことであり、身の引き締まることであります。教員として残す年月を精一杯励みたいと決意しております。

冠山会の皆様方には、日頃より母校の教育活動に深い御理解と力強い御支援御協力を賜っておりますことに、深く感謝申し上げます。

校長室では、背後に三十五枚もの大先生の先生方の写真を背負わせていただき、一瞬たりとも気が抜けません。中には勲章を身につけておられる先生方もおられ、到底追いつけぬ威厳をまといつておられます。さすが創立一二六年目の重みと感じ入っております。

城郭の中にある学舎は、全国的に減少しており、大学・高校を通じて貴重な存在であります。城址は現代でも地域の政治経済文化の中心であることが多く、人々の気持

ちが集まるところでもあらうと思います。

沿革などについて、残されている史料から少し勉強しましたところ、明治時代に学校を設置するために奔走された方々の思いの一端を知りました。学問はもろろんのこと、社会で有為な若者を育てようという願いが、伝わってまいります。また、郡山藩藩校の記録の一部をめくると、天保六年の「学校改造の節布令」以降の記録に、「文武の道を心得忠孝を相励」「学業武術上進の者に加役米を遣す」「文武の修行を怠けたるものは各其支配頭より督促し若し事故なくして三ヶ月以上怠けるものは呵責……」など、文武奨励に藩を挙げて取り組む様子が伝わります。本校の伝統である「文武両道」という言葉は、誰かが思いついて唱えたのではなく、藩校以来の流れを担っているのだと、一人で納得しました。今も昔も、社会における有為な人材とは、学問だけでも武芸だけでもないということかと思っています。

郡高の文化の中で育っていく生徒たちとふれあうと、礼儀正しく活力にあふれた高

校生らしいエネルギーを、ひしひしと感じます。どなたか先輩の教員に言われました。この学校は教諭として務めることが幸せな学校だよ、と。校長として務めることになりましたが、日々郡高生と親しみ、ともに学び合いたいと思っています。新しい時代の到来などという言葉が踊っています

が、時代により遅れることなく、それともにも不易流行という言葉に胸に、導いていきたいと考えています。

冠山会の皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。



人の卒業生の写真が並べて掲げられています。お一人は陶芸家の富本憲吉さん。もうお一人は今村荒男さんです。富本さんは人間国宝としても著名で、創立百周年の際にご寄贈いただいた白磁器（「花」と「白雲悠々」）が校長室で目を引く存在の一つとなっていますが、今回、今村勤三氏を知ること、荒男さんの素晴らしい業績も改めて知ることができました。本校百年史にも荒男さんは、東京帝国大学卒業の医学者で元大阪大学総長。結核免疫と予防ワクチンの研究に始まり、BCGの人体接種を初めて行い、結核の予防とBCGの普及に尽力した文化功労者と紹介されています。校内を回り終えて植松さんは、幼なじみの二人が全く違った世界で華を咲かせるために、その葉を伸ばし根っこを太くした日々が思い浮かびましたとおっしゃって東京に戻られました。

9月末、植松さんから「大和維新」と題された単行本が届きました。その帯には「新政府に独立運動を仕掛けた男 今村勤三」とあります。若き陶芸家、富本さんが勤三氏の昔語りの聞き手となって話が進む構成で、郡山中学の名も随所に登場します。本校図書館にありますので、ぜひ、お読みください。

卒業生の今

宮中歌会始に入選して

荒木 紀子(昭和33年卒)

第一報は12月12日夜に宮内庁からの本人確認と候補に入っている連絡でした。12月15日に速達で文書が届き、はじめて預選者十名に入ったことを知りました。新聞発表までは秘守して下さいとのことと「えつまさか私が」と、うれしさと驚きに震えました。

大の字の交点にまづ点火され 光の奔る五山送り火

昨年8月16日に郡高同級生の西村信幸氏が京都白川通りの自社ビルに招待して下さい同級生10名余が参加させてもらいました。西村氏は(株)ワールドコーヒーの取



天皇陛下からの短冊筒をもって写す

締役会長をしておられ多方面に活躍しておられます。

今まで五山送り火はテレビや写真では見ても実際に見るのは初めてでした。屋上からは大文字のお山がすぐ目の前に迫り、夕暮れには準備をする人々がお山を歩いているのを見えました。点火されると同時にわっと紅蓮の炎が燃え立ち大の字が浮かび上がり、煙の匂いと熱気も押し寄せてきて皆がすごい凄いと叫びました。妙法・舟形・左大文字と大パノラマに酔い痴れた一夜を楽しみました。その時の感動を詠んだ歌が入選したのです。

平成最後の年に、皇居松の間での歌会始に出させていただき別室ですぐ目の前に両陛下がお立ち下さり一人ひとりに「おことば」を下さいました。

陛下は「最近で見る送り火は凄かったでしょう」皇后様は鈴を振るようなやさしいお声で「身体に気をつけてこれから歌を続けて下さいね」とおっしゃって下さいまして有難くてただただ涙、涙がこぼれました。

匠原校長先生が始業式に歌会始入選を生徒にお話下さったそうです。私は現在茶道の講師をしていますので、茶道部の生徒たちも大変喜んでくれました。自分だけの喜びと思っていたのに多勢の方々が喜んで下さったのも有難いことでした。傘寿の年にこんな光

榮な体験が出来ましたのは、私たちの組の「燦々会」をずっと続けてきた絆があればこそであり、西村氏の招待があったおかげです。冠山会のつながりを多くの方々感謝しています。

受給資格のある人すべてに 障害年金を!!

金野 正廣(昭和48年卒)

私は高校卒業後、20数年間会計事務所勤務し、法人・個人の税金に関する業務を行ってきました。この間税理士試験に挑戦し続けてきましたが、努力不足で合格できず税理士の資格取得をあきらめました。53歳の時、テレビ通販の会社に就職しました。ここで人事・労務・経理の業務を行うようになり社会保険関係の届け出や、申請等の業務を行うにつけ、労働保険・社会保険の知識が必須となりました。同じ勉強するなら社会保険労務士試験に挑戦してみようと思ったのが、社会保険労務士になろうと思ったきっかけでした。

幸い平成23年の社会保険労務士試験に合格することができました。通販会社を60歳で退職したのを機に社会保険労務士業務に専念することにし、現在は年金相談業務を主に活動しています。公的年金制度は、ご存知のとおり老齢・障害・死亡です。日々

の相談業務に携わっていて、特に若い世代の人は「年金は歳を取ってからもらうもの」と思っている人がまだまだ沢山います。障害年金については存在自体を知らない人も沢山います。

障害年金とは、「病气やけがによつて一定の障害が残る日常生活や就労が困難になった場合症状に応じて支給される」公的年金ですが、認知度の低さや手続きが面倒などの理由で、申請していない人が少なくありません。ある統計によると、障害者約742万人のうち受給者は約200万人と3分の1にも満たないのです。特に精神の障害にかかるものは、請求方法も大変難しく、受給要件を満たしていても受給に結び付いていない方が多くいらっしゃいます。周りのお知り合いに障害で困りの方がいらつしやいましたら、ぜひ年金事務所や市役所での相談を勧めて頂きたいと思っています。

これからも、障害によつて生き難い状況に置かれている方たちに、手を差し伸べることで、一人でも多くの方が障害年金を受給できるよう支援していきたいと思っています。



三代目後継ぎは元CA

鈴木 みどり(平成19年卒)

「何ができるかわからないが、父の力になりたい」。大学卒業後、日系航空会社の客室乗務員を経て、父が社長を務める鈴木靴下に入社したのは4年前のことだ。

気負って入社したものの、靴下の知識はもちろん、取引先が話す専門用語は理解できず、名刺の渡し方など基本的なビジネス作法も未熟だった。営業経験があれば靴下を沢山売れるのに、繊維関係の仕事についていたら即戦力になれたのに、役に立たない自分が情けなく、仕事後の誰もいない工場裏でよく叫んだ。ただなんとか踏ん張れたのは、父の苦勞する姿を学生時代から見てきたからだ。

私が高校生の頃、父は米ぬかの美肌成分を糸に練り込んだ「米ぬか繊維」を開発。当時、自社開発は社内でも理解が得られず、父は勤務時間外に開発を続けた。糸が完成しても無名の小さな工場が前に出ていくことは容易ではなかった。山あり谷ありの父の開発だが、父は開発を始めて顔つきが変わった。「苦勞すればするほど、後々の物語になる」と笑う父は、生き生きしている。

そんな父に感化された私は、元CAが考えたCAの為の消臭ストッキング『Flight Stockings』を



開発中だ。ストッキングの機械は靴下と異なる為、協力工場を見つけないければならなかったが、小さな企業のこだわった取り組みに賛同してくれる工場を探すことは容易ではない。またパンスト素人の為、協力工場が見つかった後も毎回2時間電話相談することでもざらだった。そんな開発も現在大詰め。「苦勞すればするほど、後々の物語になる」という父の言葉を胸に、年内の販売を目指す。加えて、足がむくんで履く靴下がない祖父の為に「締め付けない靴下」を開発。いきなり万人に受ける大ヒット商品をと背伸びするのではなく、まずは目の前の一番近くの人、祖父が本当に喜ぶ靴下を作りたいと思い、履き心地を何度も確認しながら製品化した。目の前の一人に喜んでもらうというCA時代からの想いを大切に、今後もこだわったものづくりで父を目指す。

卒業50周年を迎え卒業式に参列して

鈴木 利孝(昭和43年卒)

団塊世代最後の昭和24年生まれの我々は、郡高を昭和43年卒業でした。昨年学校より卒業式に御招待を戴きましたが、多数の同窓生(120人)が集い大成功だった事を御報告します。

事前に学年同窓会を開き、同窓生の状況がある程度把握した事や、各クラスから幹事を選出して必要な会議を経て、十分なコンセンサスを得ながら進めて行った事が、好結果を招いたと思います。

一人で出来る事は、たかが知れています。複数の人々が気を同じくして、目的に向かって進んだ時のパワーは、計り知れない力を持つ事を再認識しました。「終活」なんて言葉が生まれ、人生100歳まで元気に過ごす事を煽られる我々世代は、何なのかと疑問を懐きつつ、それでも懸命に生きていこうと思えます。楽しい余生をどう過ごせばよいのか? 其々の生活圏で考え

実践している事が大事なのではないでしょうか。

僕は、古希を迎える今、70代をどう過ごすかワクワクしています。後30年過ごす為の準備期間としての10年を、歳相応のチャレンジャーとして、新たな出会いをもとめ、筋トレで体力アップをし、キャリアに拘らず就労していこうと目論んでいます。

そんな中、奈良県公安委員会から「高齢者講習通知書」が届きました。来るべきものを受け止め「免許証返納」の選択肢は有りません。こんな前向きな心境になれたのも、郡高卒業式にお招き戴き同窓生と集う為の準備作業に携われたからです。冠山会の一役員として、後輩達のため100歳まで元気に過ごすきっかけになるよう続ける事業にしていきたいと思います。



卒業50周年を迎え卒業式に参列して

堀内(浅井) 久子(昭和44年卒)

夢にまで見ていた郡山高校の卒業式にやっと出席出来ました。50年前の3月1日、私は短大の入試日と重なり、出席する事が出来ませんでした。寂しさや心残りが今日までずっとありました。

卒業50周年に当たり、いただいた学校からの招待、私も卒業生である様な気合いで講堂の中へ。新卒業生の入場、凜とした緊張感と礼儀正しさが伝わってきます。卒業証書の授与、校長先生や来賓の方々の御祝いの言葉の一つ一つが、当時参加出来なかった我が身にしみります。

近年卒業式も何かと様変わりしてきている中、我が母校郡山高校には昔ながらの格式高い雰囲気の中でのセレモニーに感激し、新卒業生も今までの多くの方々への感謝と、これからの不安と期待を個々に感じながら、大きく羽ばたいていかれる事と思います。本日この卒業式に招待いただき、参列出来る機会を与えていただき、このよき学び舎で、3年間過ごせた事が、走馬灯のよう

によりがえります。文武両道、質実剛健とて素晴らしいよき高校に学べた事を感謝します。

本日のこの卒業式、50年は長いような短かった日々。やっとここに18才の卒業式を終える事が出来ました事、誠にありがとうございました。私にとってこの日が人生の卒業でありスタートとして、これからは振り返らず、前進していきたいと思っています。

卒業式への参列後は、この式に出席された方々との同窓会も開催されました。10代後半にこの学び舎で3年間一緒に過ごした仲間達との思い出話など、時間の経つのも忘れる程懐かしい楽しい一時でした。新卒業生の皆様、この伝統ある郡山高校の卒業生として、自信を持って社会に貢献していただきたいと思えます。最後になりますが、素晴らしい機会をつくっていただいた事、誠にありがとうございました。



お知らせ!

昭和45年3月卒業生の皆さんへ

昭和45年卒業の方は、卒業50周年に当たります。

来年の卒業式(2020年3月1日)に招待されます。



冠山五十三会 (旧 郡山中学校53期生)
(昭和20年卒業) 卒寿同窓会 平成31年1月15日

昭和20年卒業して以来数十回の同窓会を重ね88歳の米寿の会を盛大に終えてから、早や2年が過ぎ今年は90歳の祝の会を催すことが出来ました。
米寿の折の出席者からは半分になりましたが10名の元気な顔がそろって楽しいひとときでした。

冠山五十三会
卒寿同窓会に寄せて
昭和20年卒 松本 節男



想い出は昭和16年4月桜花爛漫の憧れの郡中に入学したのが166名でした。戦争中の学業も大変で教練(兵隊の訓練)が主でした。また2年生を終えると学徒動員という事態で名古屋の工場(三菱電機)で兵器の生産に全寮制で毎日働き、その間B29の空襲を受け防空壕住まいも毎日の様でした。
20年3月中学校卒業式も一応寮で行われ、空襲のため疎開で中仙道に行き、山間の工場造りに汗を流しました。その後各々の進路に進みました。本当に苦労ばかりの青春でした。
しかし鍛えられた精神力でもって社会の為に今迄働いて、盡してこれたことを考えると感謝の気持ちで一杯です。

更に元気であと幾年か頑張っていきたいと同窓生みんなの願いだと思っています。
最後に郡高の益々の御発展を心から願っております。



(後列左より) 石田 前川 辻井 小城 澤田 井上 濱口 小谷 藤原

(前列左より) 喜多 西谷 若井 杉山 西田 越尾 松村 乾

反して郡山を離れる人々もあり、せっかく一緒に勉強と思つた学友との別れが強制されたのは残念でなりません。生意気で色気たっぷりの男子の中へ、妙齢の女学生を迎えた時の我々のえもいわれぬ心情を思うと今でも何か特殊な気持となる。
さて今回、郡中23会同窓会は、平成30年5月10日奈良「春日ホテル」で開かれ

た。出席者17名であったが、幹事に決まっていた青山音信君が病気になる、杉山武敏君に幹事をお願いした次第です。
初めに前回の名簿から10名の物故者のご冥福を祈り、黙祷を捧げてから、郡中の校歌の熱唱後に出席者の健康を祝しての乾杯後に懇親の宴となった。
杉山君から今年は全員の近況報告をできるだけわくわくする様にとの申し出があり、今までにない話などを聞いたりして例年よりは有意義なものとなった。会の様子はいつもと変らない様に思うが、年寄りくさい病気の話などはなかった様に思われたのは小生の一人よがりのせいかもしれない、いささか良い気分となりました。何やかやといつても老年ばかりの会は暗いことが多いのですが、今回は何かと晴れやかにすごせた様子で幹事として大変楽しかったと思われ

ます。
最後となりましたが、郡中23会員も皆高齢になってきてこの会の幕引きを考える様になりました。前々から時々雑談などで話に出ていましたが、いつか坂本学君が88歳の米寿のときがよいと思うと、彼がやってやるといつていたことがありました。が、当の本人が鬼籍に入ってしまったのでこの案をたたき台にして考えてみてはと考えます。

郡中23会同窓会報告
郡中23年卒 若井 淑人

9月からようやく教室で机に座れたものの、22、23年には「学校教育法」の施行で6・3・3制が実施され、私達も新制高校の併設中学生となりました。
23年春に郡山高校生となったと思つたら奈良県にも学区制が敷かれ、男女共学となり、意に

てみれば我々ほど変化にとんだ者は稀だと感じます。
7組位になつていた様に思う。
8月15日に敗戦となり、考え

者には稀だと感じます。
9月からは、22、23年には「学

校教育法」の施行で6・3・3制が実施され、私達も新制高校の併設中学生となりました。

23年春に郡山高校生となったと思つたら奈良県にも学区制が敷かれ、男女共学となり、意に

反して郡山を離れる人々もあり、せっかく一緒に勉強と思つた学友との別れが強制されたのは残念でなりません。生意気で色気

たっぷりの男子の中へ、妙齢の女学生を迎えた時の我々のえもいわれぬ心情を思うと今でも何か特殊な気持となる。
さて今回、郡中23会同窓会は、平成30年5月10日奈良「春日ホテル」で開かれ

た。出席者17名であったが、幹事に決まっていた青山音信君が病気になる、杉山武敏君に幹事をお願いした次第です。
初めに前回の名簿から10名の物故者のご冥福を祈り、黙祷を捧げてから、郡中の校歌の熱唱後に出席者の健康を祝しての乾杯後に懇親の宴となった。
杉山君から今年は全員の近況報告をできるだけわくわくする様にとの申し出があり、今までにない話などを聞いたりして例年よりは有意義なものとなった。会の様子はいつもと変らない様に思うが、年寄りくさい病気の話などはなかった様に思われたのは小生の一人よがりのせいかもしれない、いささか良い気分となりました。何やかやといつても老年ばかりの会は暗いことが多いのですが、今回は何かと晴れやかにすごせた様子で幹事として大変楽しかったと思われ

ます。
最後となりましたが、郡中23会員も皆高齢になってきてこの会の幕引きを考える様になりました。前々から時々雑談などで話に出ていましたが、いつか坂本学君が88歳の米寿のときがよいと思うと、彼がやってやるといつていたことがありました。が、当の本人が鬼籍に入ってしまったのでこの案をたたき台にして考えてみてはと考えます。

た。出席者17名であったが、幹事に決まっていた青山音信君が病気になる、杉山武敏君に幹事をお願いした次第です。
初めに前回の名簿から10名の物故者のご冥福を祈り、黙祷を捧げてから、郡中の校歌の熱唱後に出席者の健康を祝しての乾杯後に懇親の宴となった。
杉山君から今年は全員の近況報告をできるだけわくわくする様にとの申し出があり、今までにない話などを聞いたりして例年よりは有意義なものとなった。会の様子はいつもと変らない様に思うが、年寄りくさい病気の話などはなかった様に思われたのは小生の一人よがりのせいかもしれない、いささか良い気分となりました。何やかやといつても老年ばかりの会は暗いことが多いのですが、今回は何かと晴れやかにすごせた様子で幹事として大変楽しかったと思われ

ます。
最後となりましたが、郡中23会員も皆高齢になってきてこの会の幕引きを考える様になりました。前々から時々雑談などで話に出ていましたが、いつか坂本学君が88歳の米寿のときがよいと思うと、彼がやってやるといつていたことがありました。が、当の本人が鬼籍に入ってしまったのでこの案をたたき台にして考えてみてはと考えます。

た。出席者17名であったが、幹事に決まっていた青山音信君が病気になる、杉山武敏君に幹事をお願いした次第です。
初めに前回の名簿から10名の物故者のご冥福を祈り、黙祷を捧げてから、郡中の校歌の熱唱後に出席者の健康を祝しての乾杯後に懇親の宴となった。
杉山君から今年は全員の近況報告をできるだけわくわくする様にとの申し出があり、今までにない話などを聞いたりして例年よりは有意義なものとなった。会の様子はいつもと変らない様に思うが、年寄りくさい病気の話などはなかった様に思われたのは小生の一人よがりのせいかもしれない、いささか良い気分となりました。何やかやといつても老年ばかりの会は暗いことが多いのですが、今回は何かと晴れやかにすごせた様子で幹事として大変楽しかったと思われ

ます。
最後となりましたが、郡中23会員も皆高齢になってきてこの会の幕引きを考える様になりました。前々から時々雑談などで話に出ていましたが、いつか坂本学君が88歳の米寿のときがよいと思うと、彼がやってやるといつていたことがありました。が、当の本人が鬼籍に入ってしまったのでこの案をたたき台にして考えてみてはと考えます。



第24回 郡山いくにこ同窓会 平成30年5月12日 於：奈良パークホテル

第24回郡山 いくにこ同窓会報告

例年通り奈良パークホテルで5月12日(土)に開催しました。ご案内ハガキは男子22名女子37

2年先の次回が丁度その年にあたる様ですし先日乾 好君との会で幹事は杉山武敏君、西田輝也君と小生の3名でやつてくれと云われ一応承諾はしましたが又いろんな考えがあればと思つて居ります。

次回の会合に出席できる様に頑張るつもりです。

名計59名に発送しましたが、当日の出席者は男子8名女子16名計24名でした。

友達・仲間は顔を見るだけで自然と笑顔になるものです。年令も86歳87歳になるとここまでよう生きて来たなー。ということとです。何を書けば良いのか。話題は尽きないので、それは次回会った時の話題として、記念写真を掲載してもらうことにします。

第25回も5月の連休あけに開催する予定です。一人でも多くの出席をお待ちします。

幹事 亀井龍彦 川端政義
大槻宏子 坂口尚子

第16回いそろく

(郡中56期生)同窓会

川端 政義

1944年に憧れの郡中(207人)に入学。1948年学制改革で総合制高校2年(174人)に編入した同窓会。激しく厳しい人生を競い合った友もめつきり減り今回は平成29年11月22日に9名が大和郡山【萬佳】に集まり、互いに元気であることを確かめました。来られなかった友の近況の報告から始まり、尽きぬ話に歳を忘れ、暫し心弾む出会いとなり

クラス会に参加して

昭和33年卒 内藤 眞

ました。そして別れが近づき次の出会いを来年のあの校章の桜の咲く4月4日と約束しました。意義深い出会いでした。

笑顔で健康寿命との闘いなどを鼓舞し合いながら別れました。

永久幹事 高橋、花房、川端

平成30年6月24日(日)
奈良公園の一の鳥居横の「四季亭」に12人が集まりました。恒例のクラス会8組12人です。会場「四季亭」には、平成



燦々会(郡高33年卒)

10組)同窓会成三

堀江 宏子

平成30年4月4日(水)
奈良県に育ち、いつも身近にありながら少しご無沙汰の方もあった薬師寺さんでの同窓会でした。

大きな寒暖差に振り回される日々が続く中でも当日は、穏やかな大和の春でした。

卒業60年目。60年の経年に、髪は白く、額は広くなり過ぎ、

26年から利用しており、最高の雰囲気です。奈良の料理屋の中では一番のお気に入り。物故者の黙祷に始まり、乾杯と続き、参加者による近況報告、歓談。

時の経つのも忘れ、アツという間にお開きの時間となりました。私達の年代は、昭和14年、15年生まれです。今年度中に満80才を迎えます。今年度を持ちまして、長い間の同窓会をお開きとさせていただきます。長い間ご協力を有難うございました。次回は令和元年6月30日(日)最終回です。



さらには腰が、膝が痛む。杖がある。どこそこ不具合がある。と言いつつ、上機嫌の20名があつてました。

顔を合わせた途端、18歳の紅顔の美少年、美少女に戻りました。

村上太胤管主の法話を頂きました。薬師寺千三百年の歴史や高田好胤師が呼びかけられ、写経による勸進で伽藍復興の再建立を始められ今年で40年。全ての完成に近づいたこと等々。気さくなお話しでしたが、お聞きした後、不思議に心が落ち着きました。

その後、後輩(平成16年卒)の加藤大覺師の「いねい」でわか

りやすいご案内で境内を一巡りして、仏像や、平山郁夫画伯、田淵俊夫画伯の壁画を拝観しました。

その後はアムリットでイタリアン料理の会食、懇談。シニアの口にも馴じむメニューでした。昨日の話と60年前の話が交錯しながら話は尽きませんが来年の幹事を決めて散会いたしました。

以上

クラス会報告

昭和42年卒 中田 正

恩師傘寿、教え子古希の植村正純クラス会が秋の大和路、奈良ホテルで開かれた。最初に早く逝った級友に黙祷。恒例となった植村授業ではお座敷小唄がテーマ。「富士の高嶺に降る雪も…雪に変わりが無いじやなし」とけて流れりや皆同じ」の歌詞について「雪に変わりが無いじやなし」が正しいとする学説(?)もあると説明。「さて君達はどちら」と問いかけた。結論は「ないじやなし」(雪に変わりがあるの意)に軍配をあげた。降る雪が皆同じでは平板過ぎて複雑で変わりやすい女心になじまないというのが理由。

女心は永遠の謎なのだ。

各人の近況報告では「8人の孫の世話に追われている」「40代の息子がようやく結婚し、ほっとしている」「ガン手術後のリハビリ中」「親の介護に励んでいる」「現役を引退し地域ボランティアをしたい」から「投資を始めようと思っている」など団塊世代の人生模様は様々。もつとおもしろい話題もあったと思うが、当方は歳以上に耳遠く小さい声や席が遠かった人の話は聞き取れず、許されよ。

高校を卒業して50年も過ぎると物故者も増えて淋しさも募る。また正直に言えばクラス会も回を重ねるとマンネリ化もあつて参加者の確保に苦労する場合も多くなる。ただ今回は世話人が精力的に動いてくれたおかげで参加者も多く横浜や千葉から泊まりがけで二人の女性が来てくれたのには感激した。奈良ホテルの選定もすばらしかった。

記念写真をホテル玄関で撮って植村先生がお帰りになったのち今後のことも検討しクラス会の存廃も話題になったが東京五輪の2020年の秋に実施することを決定。再会を約して散会となった。

昭和48年卒3年1組 嶋田先生米寿(88歳)御祝と生徒 (8×8=64歳のクラス会)

昭和48年卒 山室 敏行

平成30年5月12日土曜日、「江戸川 奈良ファミリィ店」にて昭和48年卒業3年1組のクラス会を担任の嶋田一郎先生をお招きして開催しました。前回は13年前の平成17年でしたが、その間、学年の「卒業30周年」「還暦」同窓会がありクラス会としては久々の開催で約半分の22名の参加となりぎやかな会となりました。



した。席は男女交互でくじ引きでこの歳でもドキドキ感の中で決め着席。

まずは、当時流行ったキャンプファイヤーなどでみんなと歌ったフォークソング「遠い世界に」の1フレーズを歌い、前回から今回の間に亡くなった故人を懐かしみ、その歌詞の「遠い世界に旅に出ようか」は昔は夢・未来、今はあの世「それとも赤い風船に乗って雲の上を歩いてみようか」は昔は青空に浮かんでる雲、今は三途の川など、不謹慎かも知れませんが昔の捉える意味合いと今捉える意味合いと違っていると、みんなを感じながらそれぞれの青春時代を振り返り、故人との思い出を偲び「黙祷」を捧げました。

その後、先生のお言葉のあと乾杯にうつり、食事歓談しながら、高校時代の写真から過去のクラス会、学年会写真を手作りで一冊にまとめたアルバムを回覧し大盛り上がり、飲食しながら定番の近況報告、遠く千葉県から初参加の人、還暦過ぎて現役で仕事を頑張っている人、還暦後ストレスのない人

託の仕事をしている人、引退している人、孫の世話で忙しい人、親の介護で頑張っている人、病院通いしている人など、いろいろですが、この歳まで生きてきた自負と同時に、「これからだよ人生は」といづれも充実感のあるみんな素敵な笑顔でした。

食事後のデザート前に席替えし、本日話せていない方々とも話が出来た様子。最後に嶋田先生の米寿御祝式を催し、先生から長寿の秘訣をお教えいただきました。快眠、快便、快唱、快舞、快步に加え、過食、過飲に注意すること等、ご本人も70歳までお仕事をされていたのことで、今回も榎原から大和西大寺まで足を運んでいただきました。

最後にクラス会と先生の米寿御祝の写真撮影をして一次会を終えました。

二次会は大半が残り、「江戸川」向かいの歩いて10歩のカフェでケーキと飲み物、それでも名残惜しいのか半分以上残り、三次会はまたそこからななめ向かいの歩いて10歩の居酒屋と、「3軒計20歩と世界一移動の少ないクラス会やな」と笑いながら気が付けば12時から始まって夜9時ちかくなっていました。

今後は健康寿命も意識しクラス会を開催しようと言いな

次回幹事に引継ぎ、散会となりました。
追記、

後日、先生より「クラス会の写真を額縁に入れて床の間に飾り、米寿祝いの品の名入り箸を、使うのがもったいないので仏壇にお供えします。百歳時代とはいえ、先行きは不透明ですが、元気で楽しく余生を過ごしたいと念じています。」とのメールを頂戴し、感銘敬服した次第です。

これから開催するクラス会にも人生の先輩、お手本として、お体の許せる限り来ていただきたいですね。

このクラス会の1週間後に、48年卒の学年ゴルフコンペ「野次馬会」も開催され本当に満喫した郡高ウィークでした。

昭和50年3月卒業 3年1組クラス同窓会

昭和50年卒 芝田 陽子

平成31年2月2日(土)、大和西大寺「月日亭」に於いて同窓会を行いました。

残念ながら担任・副担任の先生はご逝去されましたが、18名が集まりました。

45年ぶりに再会した友や、自己紹介しないとわからない友が



いて開始早々大盛り上がりでした。

近況報告だけでなく、みんな18歳にタイムスリップし、時間を忘れて思い出話に花が咲きました。郡高の良さを熱く語り合い、改めて郡高愛を深めた時間になりました。

次回は65歳夏の再会を約束し、名残惜しく帰路に着きました。

昭和58年3月卒 平成最後の 学年同窓会を開催

昭和58年卒 夏原 二朗

平成30年9月23日(日)、ホテル日航奈良において、昭和58

年卒業生の学年同窓会を3年振りに開催しました。

全国各地から73名が参加し、当時の恩師の先生方6名にもご臨席賜りました。

(上田清先生、梅崎信彦先生、小枝猛先生、姫野忠弘先生、美並一雄先生、城野義明先生)

物故者への黙祷に続き、代表幹事の久保田博之君の開会挨拶、恩師で最年長の姫野先生の乾杯の音頭で、いよいよ開宴。まだまだ若いけれど、長時間立っているのはつらいとのリクエストにお応えして、今回は各テーブルでの着座式buffetスタイル。

クラスごとのテーブルでスタートしたものの、ものの5分で皆さん立ち上がり、あちらこちらで歓談の花が咲きました。

話が盛り上がったところで、司会の山中康正君から本日のお楽しみの発表。「さあ！みんなでフォークダンス！」会場に流れる懐かしの「オクラホマミキサー」。最初は恥ずかしがつて

昭和58年卒 郡山高校同窓会



最後は、石野真二応援団長率いる郡高応援団による郡高音頭！興奮は最高潮へ。当時の野球部の甲子園出場を思い出し、感慨深いものがありました。校歌斉唱で締めくくった後は、次回代表幹事の福貴田保洋君から「次回は2020年のいい夫婦の日、11月22日に開催することを今決めました。」との発表。今回残念ながら来られなかった皆さんも、是非ご参加をお願いします。

大盛況のうちに1次会はお開きに、ホテルの別会場場で2次会を開催。時の経つのも忘れ、昔のこと、今のこと、話は尽きません。

その後、ホテル近くのおしゃれなスペイン料理屋さんを貸し切り3次会へ突入。大いに盛り上がりました。まだ、元気なメンバーは4次会のカラオケへ。

どんなに久しぶりでも、すぐに18歳に戻るのが同窓会。社会に戻ればみんな別の顔があるけれど、この日ばかりは思う存分高校生気分を楽しめました！次回元気に会えるよう、健康に留意し飲み過ぎないことも心に誓った一日でした。皆さん元気で2年後、お会いしましょう。

いた参加者も幹事の先導でダンスが始まると、すぐに大きな輪ができ上がり、先生方も参加して大盛り上がり。2回のアンコールの後、ようやく終了。高校の文化祭や体育大会で踊ったあのドキドキ感がよみがえりました。

第8回冠泳会総会

開催される

幹事会代表 扇田 勉

平成30年10月28日 奈良市（あやめ館）にて開催されました。平成最後の総会になりました。会長（井上徳造）始め東京方面から芳仲 田口 山崎先輩方（S25～29卒）、西は岩国の遠方から小坂さん（S45卒）が参加していただきました。

総会は校歌合唱から始まり、不参加の方の近況報告を紹介しました。

海外在住の方、子育ての忙しさ、体調不良と色々な報告があ



りました。

来年から既存のプールが無くなると言う問題が出てきました。練習できない、水泳部の存続？ 色々意見が出ましたが心配するだけになりました!! どうなるのか推移を見守ると云うことになりました。16年続いているOB会です。「継続していう」を合言葉で終わりました。

追伸 卒業生の皆さま是非参加を!!

昭和三十三年卒

燦燦会開く!

幹事 松田 俊文

昭和三十三年十組のクラス会を平成三十一年四月五日に開催しました。平成最後の同窓会是好天気に恵まれ、東京、名古屋からもみんなで十五名が元気な姿で集まりました。

まず近鉄奈良駅前に集合、昨秋、三百年ぶりに再建落慶された興福寺中金堂を見学、大森俊貫師の案内で、天平時代創建当時様式の金堂をあおぎ、青空に輝く鴟尾に見とれました。さて会食は近くの老舗



の菊水楼で洋食を賞味しながら話に花が咲きました。

今回は一月十六日の天皇皇后両陛下と皇族方が出席されて行われた「歌会始」の儀に私たち同窓生の荒木紀子さんの短歌が入選されました。

全国から二万通以上の応募数がある中から入選されたこと、すばらしい快挙であります。

その短歌は「大の字の交点にまづ点火され光の奔る五山送り火」です。京都の伝統行事を鑑賞したときの思いを詠んだものです。おおいにみんなで詠い祝福いたしました。

その後、出席メンバー一人一人がそれぞれの体調のこと、趣味のことなど近況を報告しあい

ました。会食後は、奈良の街並の満開の桜を眺めながら散策した次第です。

私たちは今年で八十才を迎えます。お互いに元気を確認し合

いながら来年も再会を楽しみにします。平成よ、ありがとう、令和にみんなの幸あれと祈ります。

以上



冠山会へのご協力お願い

“冠山会だより”の発行は、今、危機に直面しています。冠山会の活動は皆様会員（卒業生全員）の協力金¥2,000／年のみをもって運営されていると言っても過言ではありません。

この“冠山会だより”が我々3万有余の卒業生をつなぐ唯一の糸であります。上は100才以上の方から新卒業生まで、こんなにも広く同じ母校を巣立った友としてつながっていると思えば、すばらしい事だとは思われませんか？こんなにも多くの同窓生に全員配布されているのは珍しいと聞きます。

是非とも、この“冠山会だより”の発行事業の存続のため、協力金の振込みを、よろしくお願い申し上げます。なお資金集めのため“冠山会だより”に企業広告を掲載していただける方を募っていますのでよろしくお願い致します。

〇〇会計事務所

冠山 太郎 S〇年卒

1マス ¥5,000 約9cm × 約5cm

詳細は冠山会事務局まで御連絡下さい。

冠山会歴史愛好会 報告

昭和38年卒 亀田 亮子

今年も新参加者に加え、賑やかに開催されました。

第1回「飛鳥路を歩く」近鉄飛鳥駅に集合。民家と隣り合わせの岩屋山古墳、八角墳である牽牛子塚古墳、明日香村教育委員会の技師が埋まっていた石が人為的に割れた痕跡を見つけ周辺を発掘して見つけた越塚御門古墳、又鬼の雪隠や鬼の俎などまだまだ謎が多い石造物を、竹村先生のお話を聞きながら巡りました。



(松尾芭蕉の詠んだ記念碑)、史跡の丘、當麻寺(大和の代表的な寺、中将姫伝説で知られる當麻曼荼羅は本堂の本尊になっているが非公開、幾度も複製が作られその一つ文亀曼荼羅が厨子に収まっている)、曼荼羅と曼陀羅の違いは浄土宗では「曼陀羅」、真言宗では「曼荼羅」と記しています。日本に現存すると言われる塑造の国宝弥勒仏坐像など多くの国宝や重要文化財があるお寺です。

第2回「當麻の里を訪ねる」近鉄磐城駅に集合。二上山を間近に見、長尾神社、綿弓塚

第3回「ヤマト王権誕生の纏向遺跡を訪ねる」JR巻向駅に集合。纏向遺跡とは奈良県桜井市の三輪山の北西麓一帯にある弥生時代末期から古墳時代前期にかけての集落遺跡。2013年に3世紀に建造されたとする建物の柱穴が100箇所以上検出され桃の種なども多数出土し邪馬台国の所在地をめぐる九州説と近畿説の所在論争に影響を与えそうだとマスコミで報道されました。

第4回「哲学の道を歩く」JR奈良集合。JR六地蔵から地下鉄に乗り換え蹴上まで下車。インクライン(疏水の水運において蹴上の船溜まりと岡崎の動物園南の船溜まりの標高差に軌道を敷いて舟ごと台車に乗せワイヤーを巻き上げ走行させる)現在は復元され台車が蹴上におかれている。南禅寺境内を通過する水路閣を見る。禅林寺(永観堂)顔を左に向けた見返りの阿弥陀と紅葉の美しさで知られる寺、人の多さにびっくり!哲学の道を通り昼食の後、真如堂へ(正式には鈴聲山真正極楽寺とい天台宗のお寺)ここも紅葉が見事だった。

竹村先生には資料や昼食の手配などいつもお世話になり大変感謝しております。いつも明るく会を盛り上げて下さっていた、石谷英代さんがお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

郡高文化祭 冠山会コーナー

平成30年8月31日(金)、9月1日(土)の2日間、郡高文化祭が開催されました。今年も2日間冠山会コーナーを設け、多数の方にご来場頂きました。非公開初日は、生徒、教職員の皆さんに、一般公開2日目には卒業生の方々にも観覧していただきました。

今年は冠山会館に展示、保管されている大先輩から寄贈して頂いた絵画、書、陶芸など貴重なものを展示するコーナーを設けました。改めて大先輩たちの偉大さを感じてもらえたと思います。また、歴代の「啓明新聞」の展

示では懐かしそうにページを繰る卒業生の姿も見られました。そして、今回で3回目となりました卒業50周年(S43卒)コーナーでは、同窓生の方が作品の前で再会を懐かしんでおられました。

なお、長らく郡高文化祭冠山会コーナーを設けてまいりましたが、平成30年度をもちまして終了させていただきます。出品して下さった会員の皆様、ご来場いただいた多数の会員の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



植木剪定ボランティア作業に参加して

(平成30年12月1日(土)実施)

母校の景観と環境保全のため、例年通り、冠山学舎の植木剪定並びに落葉・枯葉清掃が行われました。さらに今年は、冠山会館二階の大掃除もいたしました。

初参加の私がまず驚かされたのは、剪定ボランティアの方々の手際よさ。冠山会館に覆いかぶさっている木や竹をリズムよく伐採し、リレーよろしく台車に乗せて排出されていました。

私は冠山会館二階の掃除に参加。

玄関から階段を上がったロビーに展示されている同窓生寄贈の作品等を納めたショーケースのウインドウは、積もった埃で真っ白。濡れタオルで繰り返し拭いて、くもりを落としました。さらにこの要領で、泥や木切れが付着した建物の窓の内と外から拭くと、透き通った光が射し込むようになりました。今回偶然再会し一緒に掃除していた同級生一人は、会館二階トイレを、母校への感謝を込めて磨き上げてくれました。

心地よい汗をかけた作業は午前中に終わり、冠山会館にて、参加者全員でお弁当をいただきました。同級生の輪で談笑している間に、卒業以来の再会を果たした同級生とも「変



わらへんなあ。また会いましょう」と連絡先の交換をしました。母校への熱い想いが繋いでくれたご縁を、大切にしていきたいと思っています。

最後になりましたが、ご参加いただきました皆様には心より感謝申し上げます。

次回は2019年11月30日(土)の予定です。一人でも多くの方々の参加をお待ちしております。

(昭和50年卒 石津史子)

2019年度「冠山会歴史愛好会」の参加者募集について

冠山会の皆様には益々ご健勝でご活躍のことと拝察いたします。

これまで歴史愛好会は7年間、史跡を訪ね、先人の文化遺産に触れ、その知恵に学び、会員相互の親睦を図るなど、参加者それぞれの楽しみ方をしてまいりました。

さて、8年目を迎えた今年、歴史愛好会を新たな気持ちでより充実したものにしたいと思い下記の通り計画いたしました。冠山会員皆様の積極的なご参加を期待いたします。

記

- 1 目的 史跡を訪ね、先人の文化遺産に触れ、その知恵に学び、併せて会員相互の親睦を図ります。

- 2 期日及び行き先(変更する場合があります)

- 第1回 橿原神宮周辺(新沢千塚古墳群・久米寺など) 9月26日(木)
 第2回 阿騎野・大宇陀 10月31日(木)
 第3回 清燈の里(正暦寺) 11月28日(木)
 第4回 石清水八幡と背割堤 2020年3月26日(木)
 特別会 彦根城 // 4月9日(木)
 ※公共交通機関と徒歩により史跡巡りをします。
 ※特別会として「彦根城」を計画します。

- 3 募集人数

30名ほど(申し込み人数が多いときは抽選します)

- 4 申し込み方法

- 希望者は、官製はがきに住所・氏名・卒業年次・連絡方法を明記して、冠山会歴史愛好会事務局(大和郡山市城内町1-26 奈良県立郡山高等学校冠山会歴史愛好会事務局)へ送付してください。
- これまでの参加者も自動継続としませんので、希望される方はお申し込みください。
- 申し込み締切日は7月31日(水)

- 5 費用

交通費、拝観料、食事代など実費をご負担頂きます。

- 6 ガイド・世話人

- 竹村 隆
(冠山会元会長、元奈良県高等学校歴史教育研究会会長)
- 吉田一男
(冠山会前副会長、元奈良県高等学校歴史教育研究会会長)

- 7 その他

参加決定者には、電話あるいは書類(第1回の案内)にて連絡・ご案内いたします。

奈良県立郡山高等学校冠山会歴史愛好会事務局

文武両道

2019年度入試を振り返って

今春の大学合格者数は、国立大学 97名、公立大学 52名、私立大学 813名、短期大学7名となりました。生徒一人ひとりが自己の目標に向かって最後まで諦めず、やり抜いた結果が現れています。

今年度は文系では経済・経営・商の各学部が依然として人気が高く、さらに国際関係や外国語に関わる学部学科も志願者が増加傾向にありました。一時人気が下がっていた教育系も人気が回復しました。また、理系では基礎工学や理学部が昨年度並みでしたが、農・水産はやや増加傾向にありました。依然と難関である医学部医学科への合格が今回は3名ありました。

高大接続改革に伴う大学入試改革が進められる中で、私立大学の合格者数絞り込みや、国公立大学の入試方法の変更等、生徒たちが大きな影響を受ける制度改革が進められる中、目標をしっかりと定め、計画性をもって自分の将来を切り開いていく気力と体力を身に付けてもらいたいと思います。

2019年度大学入試等 合格者数

国立大学	計
北海道	3
東北	1
筑波	1
茨城	1
埼玉	1
富山	1
金沢	1
福井	4
岐阜	1
名古屋	1
三重	7
滋賀	4
京都	1
京都工芸繊維	3
大阪	9
大阪教育	16
神戸	19
奈良教育	9
奈良女子	2
和歌山	3
岡山	1
広島	2
山口	1
九州	1
長崎	1
宮崎	1
鹿児島	2
国立大学計	97

公立大学	計
首都大学東京	1
名古屋市立	1
滋賀県立	1
京都府立	6
大阪市立	20
大阪府立	10
神戸市看護	1
神戸市外国語	1
兵庫県立	3
奈良県立	1
奈良県立医科	4
岡山県立	1
下関市立	1
高知工科	1
公立大学計	52

国公立大学計 149



私立大学	計
北里	1
工学院	1
芝浦工業	2
上智	1
中央	1
国際基督教	1
東海	6
東京理科	2
日本	2
武蔵野	1
武蔵野美術	1
明治	3
立教	2
早稲田	4
国際医療福祉	2
中京	2
愛知工業	1
南山	1
鈴鹿医療科学	1
福井工業	1
大谷	2
京都外国語	2
京都光華女子	1
京都産業	21
京都女子	27
京都精華	6
京都橘	7
京都文教	1
京都薬科	5

私立大学	計
同志社	84
同志社女子	32
佛教	2
龍谷	54
立命館	66
追手門学院	1
大阪大谷	5
大阪音楽	2
大阪経済	5
大阪芸術	2
大阪工業	13
大阪産業	1
大阪電気通信	2
大阪樟蔭女子	1
大阪薬科	1
関西	134
関西医療	1
関西外国語	12
近畿	139
四天王寺	2
摂南	13
帝塚山学院	2
阪南	1
桃山学院	7
森ノ宮医療	6
太成学院	1
大和	1
関西学院	34
兵庫医療	1

私立大学	計
甲南	4
甲南女子	9
神戸女子	2
神戸学院	5
神戸薬科	2
武庫川女子	20
奈良	1
畿央	14
帝塚山	8
天理	4
天理医療	4
奈良学園	4
岡山理科	1
松山	1
立命館アジア太平洋	1
私立大学計	813

短期大学	計
関西外国語大短大部	2
武庫川女子大短大部	1
白鳳短大	3
関西女子短大	1
短期大学計	7

- 第71回奈良県高等学校総合体育大会
「2・3年生女子」
200m自由形
「1年男子」
200m個人メドレー
1位
- ◆剣道部◆
○全国高校総体県予選
「男子」 団体 2位
「女子」 団体 5位
○近畿高校剣道大会
「男子」 ベスト8
「女子」 2位
○県高校総体
「男子」 総合 2位
「女子」 個人 2位
総合 2位
○県高校新人大会
「男子」 団体優勝 3位
「女子」 個人 5位
団体 5位
- 全国高校選抜県予選
「男子」 団体 2位
「女子」 団体 3位
○近畿高校選抜大会
「男子」 団体出場 5位
「女子」 団体出場 3位
○全国高校選抜大会
「男子」 団体出場 5位
「女子」 団体出場 3位
○全国高校総体予選・室生、曾爾
「男子」 団体 1位
チーム① 2位
チーム② 3位
チーム③ 1位
○全国高校総体・御在所岳
「男子」 35位
「女子」 35位
○近畿高校登山大会・京都府
「男子」 団体 2位
「女子」 団体 4位
○県新人登山大会・観音峰
「男子」 1位
「女子」 4位
- 合宿山行 三重県鈴鹿山系
南アルプス（北岳、間ノ岳）
○日帰り山行 京都・大文字山、奈良・二上山、鳥取・大山など多数
◆ホッケー部◆
○全国高校総体県予選
「男子」 3位
「女子」 3位
○県高校総体県選抜県予選
「男子」 4位
「女子」 2位
○近畿高等学校選抜ホッケー大会
「女子」 出場
○県新人大会
「男子」 3位
「女子」 3位
- 【文化部】
◆吹奏楽部◆
○お城祭り市民パレード
○第43回定期演奏会開催（やまと郡山城ホール）
○第60回県吹奏楽コンクール
高校A組 金賞
高校J組 金賞
○第31回県マーチングコンテスト
高等学校以上の部 金賞
○第46回関西マーチングコンテスト
高等学校以上の部 銅賞
○第33回県高総文祭
マーチング部門出場 銅賞
○第33回県高総文祭吹奏楽部門出場
○第46回県アンサンブルコンテスト
高等学校の部 金賞
○第19回関西スティージマーチング
フェスティバル出場 銀賞
（アルカイックホール）
○第17回さくらパレード出場
（京都市内）
- ◆合唱部◆
○第11回郡山高校合唱部定期演奏会
（やまと郡山城ホール） 5月3日（木・祝）
○和と輪コンサート出演（王寺りーべるホール） 6月17日（日）
○第100回全国高等学校野球選手権大会奈良県大会にて大会歌を斉唱（県内合唱部で参加） 7月14日（土）
○第100回全国高等学校野球選手権記念大会にて開会式・閉会式にて大会歌・国歌を斉唱（合唱隊の一員として4名参加） 8月5日（日）・21日（火）
○第42回全国高等学校総合文化祭（長野県ホクト文化ホール） 8月10日（金）～8月12日（日）奈良県選抜女声合唱団として4名参加。
○第85回NHK全国学校音楽コンクール奈良大会出場 銀賞受賞（大和高田市文化会館さざんかホール） 8月8日（水）
○敬老会出演（DMG MORI やまと郡山城ホール） 9月17日（月・祝）
○まほろばあいのわコンサート（DMG MORI やまと郡山城ホール）（郡山中学校コーラス部とコラボ出演）
○第37回近畿高等学校総合文化祭合唱部門（シンフォニーホール） 11月11日（日）
○第33回奈良県高等学校総合文化祭総合発表出場（奈良県文化会館） 11月23日（金・祝）
○第12回奈良ヴォーカルアンサンブルコンテスト出場 銀賞受賞（さざんかホール） 12月16日（日）
○大和郡山市合唱フェスティバル出場（やまと郡山城ホール） 3月16日（土）
○新入生歓迎会、文化祭、学校説明会で合唱
- ◆華道部◆
○春日大社での奉納演奏（3月）、英語パフォーマンス甲子園に出場（8月）、イオン高の原音楽イベントに出演（8月）、老人支援介護センターかんざん園訪問（2月）、京奈和自動車道大和北道路起工式オープニングイベント、第59回大和郡山お城祭りにて演奏（3月）
- ◆生物学◆
○鷺池水生プラントトン調査など各種実験観察を行った。
グリーンヒドラの出芽に関する実験・研究を行い、科学研究実践活動発表会・日本共生物学会等において発表。
- ◆写真部◆
○撮影会
○合同撮影会
○天王寺動物園、畝傍高校
○写真技術研修会
○日本写真映像専門学校、長居植物園
○写真部
○第38回近畿高等学校総合文化祭写真部門県代表選考会
平成30年8月13日
- ◆文芸部◆
○本年度は、少数精鋭での活動となりました。が、文章の書き手とイラスト担当、バランスよく揃っています。
○例年通り、春と夏に冊子を出し、文化祭にて披露・配付しました。
- ◆争曲部◆
○第33回奈良県高等学校総合文化祭日本音楽部門優秀賞
○第38回近畿高等学校総合文化祭大阪大会日本音楽部門参加
○新入生歓迎のつどい、文化祭での演奏（校内）
○春日大社での奉納演奏（3月）、英語パフォーマンス甲子園に出場（8月）、イオン高の原音楽イベントに出演（8月）、老人支援介護センターかんざん園訪問（2月）、京奈和自動車道大和北道路起工式オープニングイベント、第59回大和郡山お城祭りにて演奏（3月）
- 3Dオリジナル動画の作成
◆放送部◆
○第65回NHK杯全国高校放送コンテスト奈良県大会
「朗読部門」 入賞
「創作テレビドラマ部門」 出場
「校内放送研究発表」 出場
○第42回全国高等学校総合文化祭放送文化部門
「アナウンス部門」 出場
「朗読部門」 出場
○第35回奈良県高等学校放送コンテスト
「アナウンス部門」 奨励賞
「テレビ部門」 奨励賞
- ◆科学部化学班◆
○サイエンスチームなら参加
○中高生の科学研究実践活動推進プログラム 生徒科学研究発表フォーラム ポスター発表部門 奨励賞
○国立研究開発法人科学技術振興機構（10月21日）
◆科学部電気班◆
○WRO（ワールド・ロボット・オリンピック）に向けたロボット製作・プログラミング

また、秋には卒業生への感謝の気持ちを含め、「春隣のしゃおん」を作成しました。
伝統の部誌「若竹」も八十九号を数えています。細々ですが、しっかり伝統を受け継いで頑張っております。

◆ESC◆

奈良県内のESS部が集まるサミットに参加し、スピーチやポスター発表をしました。また英語弁論大会・イングリッシュフェスティバルにも参加しました。他校と合同でクリスマス会を行い英語のゲームなどを通して交流を深めました。

◆歴史部◆

文化祭で、大和郡山市の歴史や史跡について調査の結果を展示・発表しました。

◆応援局◆

夏の全国高校野球選手権大会奈良大会において、甲子園出場を目指す野球部のチアリーダー・ディンクをしている。生徒会・吹奏楽部・野球部と協力・連携し、野球応援をリードする役割を果たしている。

◆新聞局◆

校内新聞である「啓明新聞」第二七八号を発行した。

◆将棋同好会◆

○第33回奈良県高等学校総合文化祭将棋部門 男子個人戦 4位

○第18回将棋最強者決定戦

男子個人戦 敢闘賞

◆茶道部◆

大和郡山お城まつり、冠山会総会、文化祭にてお茶席を設け、お手を披露する。

◆軽音楽同好会◆

放課後週四日、校友会館一階で練習を行っている。
○4月、大和郡山お城まつり時代

行列・白狐渡御に参加。

○8月、大和郡山市主催全国金魚すくい選手権奈良大会に審判として参加。

○8、9月、本校文化祭にて演奏。

○10月、こおりやま音楽祭「楽」にて演奏。

○3月、カフエプラチナにて発表会を開催。

◆演劇部◆

○平城京天平祭

市の再現ボランティア(5月)

○第33回 奈良県高等学校総合文化祭 演劇部門出演(11月)

◆美術部◆

○第33回奈良県高等学校総合文化祭ポスター原画佳作1点

○第26回アートグランプリ特別賞1点

○朝日放送テレビ「カミワザ甲子園」球児へのエール」番組のために黒板アート作品制作

○柳澤神社大絵馬奉納

◆書道部◆

○第19回高校生国際展奨励賞1名 佳作1名

○第45回奈良県ジュニア美術展覧会教育長賞1名 佳作1名

入選者多数

○第65回大和郡山市芸術祭奨励賞1名 入選者多数

○第65回日本学書展 特選1名

○第38回近畿高等学校総合文化祭徳島大会への奈良県代表出品者1名

○第33回奈良県高等学校総合文化祭 優秀賞受賞、書道部門来年度全国大会に推薦される

○第66回大神神社書初めまつり奈良県書道教育研究会賞2名 特選1名

トピックス

選抜大会初出場

剣道部は愛知県春日井市で行われた第28回全国高等学校選抜大会に、男子団体戦で出場しました。女子団体戦においては過去4回出場を果たしています。が、男子での出場はこれまでになく、全国大会への出場も40数年ぶりでありました。

剣道部は現在部員30名、立派な瓦葺きの武道場を使って大変恵まれた環境で稽古をさせてもらっています。全国大会に出場した選手達は、中学時代に近畿大会や全国大会を経験している者もあり、技術的には入学当初から高いレベルでした。しかし、剣道の試合は「技術3割、気持ち7割」といわれることもあり、精神的な部分が勝敗を大きく左右する競技です。また、奈良県には奈良大学附属高校という全国レベルの強豪校があり、高い壁として常に立ちはだかつています。年度当初、全国大会を目指して、部員達には毎日の稽古や日常生活で自分が出ること、話をまづききちんと取り組もうと話をしました。それから、戦う気持ち

を養うために県外の強豪校に胸を借り、練習試合をお願いしました。勉強との両立で時間も限られるなか、生徒達の日々の積み重ねが力になってきたのか、夏の近畿大会でベスト8、秋の新人戦では優勝と少しずつ結果もついてくるようになりました。全国選抜の奈良県予選では、初戦から動きに硬さがみられたものの、それぞれが役割をきちんと果たし、全国大会の出場権を獲得することができました。

全国大会の初戦の対戦校は龍谷富山高校という富山の強豪でしたが、それまでの練習試合の調子から、自分達の剣道をして泥臭く戦うことができれば、勝機は十分にあると感じていました。先鋒・次鋒・中堅と引き分けて試合が進み、勝負所とみていた副将戦。試合時間の中盤で、高田が見事な引き面を先取。「よし！いける！」と一瞬勝負の糸がゆるんだ瞬間、今度は相手に完璧な面一本を奪い返され、副将は引き分け。相手に勢いを

持っていかれたまま大将戦も面を奪われ、0対1で敗退しました。

今回、全国大会に出場するにあたって、多くの方々から応援ご支援を頂きました。改めて今剣道部がおかれている環境に感謝の気持ちでいっぱいです。同時に、全国大会で勝ちたいという気持ちも生徒達のなかに生まれたのではないかと思います。夏に再び全国大会の舞台に立つことができるよう、日々の稽古で心技体を鍛えて挑戦したいと思います。



平成29年度 収 支 決 算 書

奈良県立郡山高等学校冠山会 自 平成29年4月1日 ～ 至 平成30年3月31日

収入の部					(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要	
前 期 繰 越 金	1,917,813	1,917,813	0	前年度からの繰越金	
入 会 金	1,950,000	1,950,000	0	卒業生 5,000円×390人=1,950,000円	
活 動 協 力 金	4,600,000	4,877,020	277,020	冠山会活動協力金	
総 会 参 加 費	150,000	144,000	-6,000	一般会員 総会参加者 (72名分)	
寄 付 金	350,000	841,502	491,502	加藤大豊氏、昭三会 (昭和36年卒)、卒業50周年招待者他	
雑 収 入	20,187	65,000	44,813		
合 計	8,988,000	9,795,335	807,335		

支出の部					(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要	
委 託 費	3,800,000	3,775,179	-24,821	委託料3,500,000円 振込手数料275,179円	
総 会 費	1,000,000	888,420	-111,580	総会開催経費、新入会員懇親会費、会員懇親会費	
卒 50 周 年 招 待 費	350,000	430,392	80,392	卒50周年 (昭和43年卒) 招待経費	
報 酬	326,000	320,000	-6,000	事務補助職員報酬	
事 務 費	330,000	232,910	-97,090	事務用品、通信費、回線使用料等	
卒 業 記 念 品 費	400,000	305,624	-94,376	卒業記念品費 (卒業証書フォルダー)	
会 議 費	30,000	3,404	-26,596	役員会等茶菓子代	
事 業 費	250,000	136,861	-113,139	文化祭出品にかかる経費 植木剪定ボランティア活動経費	
慶 弔 費	250,000	253,000	3,000	教職員等の祝金、香料等	
全国大会等出場祝い金	300,000	214,000	-86,000	全国大会等出場祝い金	
諸 費	200,000	55,360	-144,640	冠山会館屋根瓦修理等	
予 備 費	252,000	100,000	-152,000	松くい虫駆除散布補助	
積 立 金	1,400,000	1,400,000	0	冠山会館維持及び周年記念準備積立金 事業費積立金	
リ ー ダ ー 育 成 海 外 研 修 支 援 金	100,000	100,000	0	平成29年度リーダー育成海外研修	
合 計	8,988,000	8,215,150	-772,850		

収入決算額 9,795,335円

支出決算額 8,215,150円

差 引 残 額 1,580,185円 (平成30年度へ繰越)

平成29年度 冠山会館維持積立金収支報告書

(単位:円)

科目	収入の部				支出の部		残額	摘要
	前年度末累計	本年度積立金	利 息	合 計	本年度支出金	翌年度繰越金		
積立金	3,229,157	200,000	346	3,429,503	0	3,429,503		

平成29年度 周年記念準備積立金収支報告書

(単位:円)

科目	収入の部				支出の部		残額	摘要
	前年度末累計	本年度積立金	利 息	合 計	本年度支出金	翌年度繰越金		
積立金	2,502,275	700,000	252	3,202,527	0	3,202,527		

平成29年度 事業準備積立金収支報告書

(単位:円)

科目	収入の部				支出の部		残額	摘要
	前年度末累計	本年度積立金	利 息	合 計	本年度支出金	翌年度繰越金		
積立金	0	500,000	0	500,000	0	500,000		

平成30年度 収 支 決 算 書

奈良県立郡山高等学校冠山会 自 平成30年4月1日 ～ 至 平成31年3月31日

収入の部					(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要	
前 期 繰 越 金	1,580,185	1,580,185	0	前年度からの繰越金	
入 会 金	1,950,000	2,005,000	55,000	卒業生 5,000円×401人=2,005,000円	
活 動 協 力 金	4,600,000	4,692,000	92,000	冠山会活動協力金	
総 会 参 加 費	160,000	216,000	56,000	一般会員 総会参加者 (2,000円×108名分)	
寄 付 金	350,000	360,000	10,000	加藤大豊氏、柏木氏、橋本前会長、昶瑞氏、卒業50周年招待者	
雑 収 入	40,815	0	-40,815	広告収入等	
合 計	8,681,000	8,853,185	172,185		

支出の部					(単位:円)
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要	
委 託 費	3,800,000	3,764,823	-35,177	発付手数料3,500,000円 振込手数料264,823円	
総 会 費	1,000,000	826,037	-173,963	総会開催経費、新入会員懇親会費、会員懇親会費、講師謝礼	
卒 50 周 年 招 待 費	350,000	108,362	-241,638	卒50周年 (昭和44年卒) 招待経費	
報 酬	320,000	322,000	2,000	事務補助職員報酬	
事 務 費	330,000	307,884	-22,116	事務用品、通信費、回線使用料等	
卒 業 記 念 品 費	400,000	277,124	-122,876	卒業記念品費 (卒業証書フォルダー)	
会 議 費	30,000	0	-30,000		
事 業 費	250,000	114,703	-135,297	文化祭出品にかかる経費 剪定ボランティア活動経費	
慶 弔 費	250,000	170,400	-79,600		
全国大会等出場祝い金	300,000	218,000	-82,000		
諸 費	200,000	43,720	-156,280	会長、副会長送別会参加費他	
予 備 費	251,000	0	-251,000		
リ ー ダ ー 育 成 海 外 研 修 支 援 金	100,000	100,000	0	平成30年度リーダー育成海外研修	
維 持 費 等 積 立 金	600,000	1,400,000	800,000	冠山会館維持及び周年記念準備積立金 事業費積立金	
新 規 事 業 検 討 費	500,000	0	-500,000		
合 計	8,681,000	7,653,053	-1,027,947		

収入決算額 8,853,185円

支出決算額 7,653,053円

差 引 残 額 1,200,132円 (令和元年度へ繰越)

平成30年度 冠山会館維持積立金収支報告書

(単位:円)

科目	収入の部				支出の部		残額	摘要
	前年度末累計	本年度積立金	利 息	合 計	本年度支出金	翌年度繰越金		
積立金	3,429,503	200,000	307	3,629,810	0	3,629,810		

平成30年度 周年記念準備積立金収支報告書

(単位:円)

科目	収入の部				支出の部		残額	摘要
	前年度末累計	本年度積立金	利 息	合 計	本年度支出金	翌年度繰越金		
積立金	3,202,527	700,000	273	3,902,800	0	3,902,800		

平成30年度 事業準備積立金収支報告書

(単位:円)

科目	収入の部				支出の部		残額	摘要
	前年度末累計	本年度積立金	利 息	合 計	本年度支出金	翌年度繰越金		
積立金	500,000	500,000	43	1,000,043	0	1,000,043		

平成30年度 冠山会予算書 (案)

奈良県立郡山高等学校冠山会 自 平成30年4月1日 ～ 至 平成31年3月31日

収入予算額 8,681,000円

支出予算額 8,681,000円

差引過不足額 0円

収入の部					(単位:円)
科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要	
前 期 繰 越 金	1,580,185	1,917,813	-337,628	前年度からの繰越金	
入 会 金	1,950,000	1,950,000	0	卒業生 5,000円×390人=1,950,000円	
活 動 協 力 金	4,600,000	4,600,000	0	冠山会活動協力金	
総 会 参 加 費	160,000	150,000	10,000	総会参加費 2,000円×80人	
寄 付 金	350,000	350,000	0		
雑 収 入	40,815	20,187	20,628	広告収入等	
合 計	8,681,000	8,988,000	-307,000		

支出の部					(単位:円)
科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要	
委 託 費	3,800,000	3,800,000	0	会報発行委託料(謝サフト)、振込手数料	
総 会 費	1,000,000	1,000,000	0	講師謝礼、新入会員懇親会費、一般会員懇親会費等	
卒 50 周 年 招 待 費	350,000	350,000	0	卒50周年 (昭和44年卒)招待経費	
報 酬	320,000	326,000	-6,000	事務補助報酬 (月額20,000円×16.0ヶ月分)	
事 務 費	330,000	330,000	0	事務用品、運送料、通信費等	
卒 業 記 念 品 費	400,000	400,000	0	卒業記念品贈呈費	
会 議 費	30,000	30,000	0	役員会、年次幹事会、活性化部会開催経費	
事 業 費	250,000	250,000	0	文化祭冠山会コーナー運営費、植木剪定ボランティア運営費等	
慶 弔 費	250,000	250,000	0	教職員等の慶弔費	
全国大会等出場祝い金	300,000	300,000	0		
諸 費	200,000	200,000	0	冠山会館備品等	
予 備 費	251,000	252,000	-1,000		
リ ー ダ ー 育 成 海 外 研 修 支 援 金	100,000	100,000	0		
維 持 費 等 積 立 金	600,000	1,400,000	-800,000	冠山会館維持、周年記念準備積立金	
新 規 事 業 検 討 費	500,000	0	500,000		
合 計	8,681,000	8,988,000	-307,000		

財 産 目 録

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
普通預金	1,580,185	南都銀行 郡山支店 普通預金(運用口座)
定期預金	3,429,503	南都銀行 郡山支店 定期預金(積立金口座)
定期預金	3,202,527	南都銀行 郡山支店 定期預金(積立金口座)
定期預金	500,000	南都銀行 郡山支店 定期預金(積立金口座)

平成30年3月31日現在

監 査 報 告

本日、上記の決算書について会計監査を執行しました結果、預金、帳簿、及び関係書類は符号し、正確に処理されていたことを認めます。

平成30年4月6日

会 計 監 事

荒 木 紀 子

西 本 功

令和元年度 冠山会予算書 (案)

奈良県立郡山高等学校冠山会 自 平成31年4月1日 ～ 至 令和2年3月31日

収入予算額 8,450,000円

支出予算額 8,450,000円

差引過不足額 0円

収入の部					(単位:円)
科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要	
前 期 繰 越 金	1,200,132	1,580,185	-380,053	前年度からの繰越金	
入 会 金	1,950,000	1,950,000	0	卒業生 5,000円×390人=1,950,000円	
活 動 協 力 金	4,600,000	4,600,000	0	冠山会活動協力金	
総 会 参 加 費	150,000	160,000	-10,000	総会参加費	
寄 付 金	500,000	350,000	150,000		
雑 収 入	49,868	40,815	9,053	広告収入等	
合 計	8,450,000	8,681,000	-231,000		

支出の部					(単位:円)
科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減額	摘 要	
委 託 費	3,800,000	3,800,000	0	会報発行委託料(謝サフト)、振込手数料	
総 会 費	1,000,000	1,000,000	0	講師謝礼、新入会員懇親会費、会員懇親会費等	
卒 50 周 年 招 待 費	250,000	350,000	-100,000	卒50周年 (昭和45年卒)招待経費	
報 酬	320,000	320,000	0	事務補助報酬 (月額20,000円×16ヶ月分)	
事 務 費	300,000	330,000	-30,000	事務用品、運送料、通信費等	
卒 業 記 念 品 費	300,000	400,000	-100,000	卒業記念品贈呈費	
会 議 費	30,000	30,000	0	役員会、年次幹事会、活性化部会開催経費	
事 業 費	200,000	250,000	-50,000	植木剪定ボランティア運営費等	
慶 弔 費	200,000	250,000	-50,000		
全国大会等出場祝い金	350,000	300,000	50,000		
諸 費	100,000	200,000	-100,000	冠山会館備品等	
予 備 費	100,000	251,000	-151,000		
リ ー ダ ー 育 成 海 外 研 修 支 援 金	100,000	100,000	0		
維 持 費 等 積 立 金	1,400,000	600,000	800,000	冠山会館維持、周年記念準備積立金、事業積立	
新 規 事 業 検 討 費	0	500,000	-500,000		
合 計	8,450,000	8,681,000	-231,000		

財 産 目 録

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
普通預金	1,200,132	南都銀行 郡山支店 普通預金(運用口座)
定期預金	3,629,810	南都銀行 郡山支店 定期預金(積立金口座)
定期預金	3,902,800	南都銀行 郡山支店 定期預金(積立金口座)
定期預金	1,000,043	南都銀行 郡山支店 定期預金(積立金口座)

平成31年3月31日現在

監 査 報 告

本日、上記の決算書について会計監査を執行しました結果、預金、帳簿、及び関係書類は符号し、正確に処理されていたことを認めます。

平成31年4月17日

会 計 監 事

荒 木 紀 子

西 本 功

平成三十年度冠山会

総会・懇親会報告

— 岩本計介さんを招いて —

冠山会幹事長 日高 容子(昭和46年卒)

もう、昨年のことになります。

平成30年度の冠山会総会は5月13日(日)いつものようにわが郡山高校の講堂で行われました。

しとしとと降る雨の中、足元の悪いところを、諸先輩方が続々と出席されます。

久しぶりの母校をなつかしむように、「昔と雰囲気は変わってないよなあ」とか、「こんなの私らいる時にあったかなあ?」などと口々に想い出にひたりながら、冠山会館の横を通り、受付へと向かわれます。

参加費を渡し記名をし、名札を手に取りご自分の卒業年次と名前を書き込み、胸にピンでつけてもらいます。毎年来られている方々もおられ慣れた様子で、茶道部の生徒が用意をしてくれているお抹



茶を頂きに赤いもうせんを敷いた

いすに三人ずつ仲良く腰かけます。甘いお菓子を頂き、順番に手渡してくれるお茶碗をうけ取り気持ち

を込めて立てられたお抹茶を頂き

ます。ほつりとする瞬間です。

あいにくの雨のせいもあり、出足はあまり良くありません。しかし、時間が近づくにつれてたくさんの方々が受付へと並ばれます。

そうだ!!今日はあの、今まさに、毎朝の「顔」としてテレビに出ておられる、朝日放送のメインキャスターとして活躍されている「岩本計介」さんの講演があるんです。

わが冠山会の同窓生であつたなんて、驚きのひとことです。総会をしている間は、校長室で待機してもらっているはずでしたが、な

んと時間になるまでにご自分でさつさと会場の講堂へと足を運んで下さいました。なんと気さくな

方だなあと思ったことを覚えていきます。テレビの画面の向こうの人がこんなにも身近に親しく話がで

きるなんて信じられないことです。

いよいよ講演が始まります。

「郡山高校に入ったことが今の自分を造った、と言つても過言ではない」と、まず冒頭にそう言われました。

いろいろな偶然が重なり、何より郡高を卒業したことご縁で人と

出会い、その人に支えられ、助けられて今、朝日放送テレビのMCを勤め、「朝の顔」として、毎日見てもらえるのですから、感謝の気持ちで一杯です。おつしやられていたのが印象的でした。もちろん、その後、並々ならぬ努力で京都大学に合格し、ラグビー部に所属されたこと、そのどれをとつても自分の人生では大切なチャンスであつたと言われました。

後々、アナウンサーとして、インタビュする機会があり、「君、郡高卒業か?」と言われ、その方にも大きなご縁を結んでもらったことなど、郡山高校に入つたことが人とのご縁につながつていったと不思議なくらいの運命にご自分自身が驚いておられました。

講演の後は、会場を商工会館に移して、懇親会になります。次から次へと岩本さんと写真を撮りた

い人たちが押しかけます。さすがにいやな顔ひとつせず、笑顔でカメラに収まり、人気者はつらいな

あと思わず思つてしまいました。

疲れているはずなのに、最後までにこやかに応対して下さい、そこに同席できた同窓生の皆さんは、本当に幸せなひとときをすごされたことでしょう。

多忙の中、母校の同窓会、冠山会のために労を惜しまず、来て頂いたこと、そして何より郡山高校を心の底から愛して下さっていることが私たちにも伝わり、心からありがたく感謝のことばも、もどかしかったことをお伝えし、30年度の総会の報告と致します。

1. 4月20日(土)

第1回役員会・年次幹事会合同会議開催
○平成30年度事業報告・決算報告及び令和元年度事業計画案・予算案

2. 5月12日(日)

令和元年度冠山会総会開催
○平成30年度事業報告・決算報告及び令和元年度事業計画案・予算案を審議。
○生徒発表…合唱部、箏曲部、演劇部がそれぞれ日頃の練習成果を発表
○懇親会…大和郡山市商工会館(まいどホール)で開催。新会員は冠山会館1階食堂で開催。

3. 6月(期日未定)

郡山高校の最近の進路対策や進路状況、部活動の活動状況等について情報交換する機会をいただけるよう学校にお願いします。

4. 6月13日(木)

第1回本部役員会を開催

5. 6月22日(土)

○第2回役員会および役員懇親会を開催
○「冠山会だより第39号」発行

6. 7月事務局開局(毎週月曜日)

「冠山会だより」発行後の名簿に関する問い合わせや情報提供に対応するために、7月の1カ月間毎週月曜日に事務局を開局する。担当は役員有志が交代して当たる。

7. 11月14日(木)

第3回本部役員会開催

8. 11月30日(土)

清掃ボランティア活動実施

9. 3月1日(日)郡山高校卒業式

卒業50年を迎える学年(昭和45年卒)が招待される。

10. 3月5日(木)

第4回本部役員会開催

11. 3月14日(土)

第5回役員会開催

令和元年度事業計画(案)

平成29年度 褒章叙勲受章者

春の叙勲 4月29日

藍綬褒章

田村禮子 昭和34年卒

● 郡山高校 ● インターネットでホームページを開設

URLアドレスは、<http://www.koriyama-hs.ed.jp> です。

同窓会をされた
幹事さんへのお願い



名簿の異動がありましたら
冠山会事務局 (0743-55-0556)
までFAXにてお知らせ頂ければ有難く思います。

平成31年度

人 事 異 動

教員退職

氏名	職名	新所属	教科等	備考
匠原記世子	校長	障害者雇用促進センター	(家庭)	
山村 雅史	教諭	郡山高校	地公	再任用教員
林 貞之	初任者指導教員			
飯田 守彦	再任用教員			

教員転入

氏名	職名	新所属	教科等	備考
笠置 慎一	教頭	高円高校	(理科・情報)	教頭
徳田 崇	教諭	奈良情報商業高校	国語	
藤本 寿人	再任用教員	高円高校	国語	再任用教員
藪田 真孝	教諭	畝傍高校	数学	教頭
山岡 昂	教諭	奈良教育大学教職大学院		教育学専攻科
松本 卓也	教諭	二階堂高校	理科	
櫻井 康雄	臨時講師	磯城野高校	理科	
久本 拓哉	教諭	生徒指導支援室	保健体育	指導主事
細江 啓介	教諭	御所実業高校	保健体育	
守屋 恵	教諭	奈良北高校	英語	
久保みのり	養護教諭	王寺工業高校	養護	

事務転出

氏名	職名	新所属	職名
小川 耕平	主任主査	大和広陵高校	主任主査

教員転入

氏名	職名	旧所属	教科等	備考
土居 正明	校長	奈良北高校	(地公)	校長
松井 寿帆	教諭	高円高校	国語	
青木 啓太	教諭	五条高校	国語	新採用
中島 良	教諭	二階堂高校	数学	(高田商業交流)
下條 志隆	教諭	王寺工業高校	数学	新採用
山本 龍	臨時講師		数学	
竹内 裕哉	臨時講師	五条高校	情報	
西田 嘉男	教諭	青翔高校	理科	
新村 聖	教諭	登美ヶ丘高校	保健体育	
生島 秀峰	再任用教員	磯城野高校	保健体育	
久次米 智	臨時講師		英語	
宮本 幸恵	臨時実習助手	王寺工業高校	養護	

常勤講師継続

山崎 諭弘	臨時講師	定数内	保健体育
清水 薫	臨時講師	育休・定数内	芸術(美)

育休から復帰

氏名	職名	教科等
若松 彩華	教諭	理科

非常勤講師

氏名	教科	備考
竹中 祐子	国語	初任者研修
飯田 守彦	数学	初任者研修
中野 源治	理科	
吉川 奈緒	保健体育	
芦田真奈美	家庭	



「平成」から「令和」に元号が変わりました。新しい元号が発表されてから施行されるまで一ヶ月、「平成」を名残惜しみ、「令和」を待ち望む期間でもありました。「冠山会だより」もこれを機に新しい会報に生まれ変わりたいと試行錯誤しました。新しい元号のように、会員の皆様も心待ちにしてください。「冠山会だより」であり続けるために、ご意見、ご協力をよろしくお願い致します。

(S 48 卒 阪本)

編集後記

平成30年度
冠山会寄付金

下記の皆様よりご寄付をいただきました。
ありがとうございました。

昭和35年卒業同窓会より寄付	100,000円
第13代校長 的場好之氏の奥さん桂子様より	30,000円
粕本源成氏より	50,000円
前会長 橋本弘隆氏より	10,000円
卒業50周年 (昭和44年卒)	240,000円
合 計	430,000円